あいち農産物生産流通レポート

平成１８年５月号

◎情報サロン
・漬物と健康
（食育推進課） ------ 1

◎地域トピックス
・海部苗木花き展示品評会が開催されました
（食育推進課） ------ 2

◎東日本情報
・大田市場で「トマトいろいろ」と題して全国のトマトが紹介されました
（東京事務所） ------ 3

◎西日本情報
・生産者と消費者をつなげ！
～ 流通関係者等産地理解促進事業～ （食育推進課） ------ 5

◎フラワーページ
・愛知県花き生産振興指針の改正について
（園芸農産課） ------- 7

◎青　果
・名古屋・東京市場における青果物の５月の見通し ------ 8
・愛知産青果物の動向（名古屋・東京市場） ------ ２０

◎花　き
・切花・鉢花の５月の見通し（県内市場） ---------- ２１

◎輸出入
・主要農産物の輸出入実績（２００６年２月） ---------- ２５

◎関連指数 ---------- ２６

本書の内容についての問い合わせ先
愛知県東京事務所物産情報グループ (03)-5492-5400
愛知県農林水産部食育推進課 (052)-954-6417

情報サロン

食育推進課

漬物と健康

愛知県は大きな野菜産地と大消費地があり、明治以降、たくあん漬を中心に漬物産業が盛んな地域です。昭和６０年までは漬物の出荷額は全国一を誇っていましたが、和歌山の梅干しや地域ブランドとして確立した長野の野沢菜などの台頭により、平成１６年実績で全国第５位となっています。

１　漬物と健康

漬物はご飯を主食とする日本型食生活には欠かすことのできない伝統的な食品ですが、食生活の多様化等により、残念ながら漬物の消費は、近年、伸び悩みの状況にあります。

しかし、最近では脂肪分の摂りすぎ、野菜が不足しがちといった現代の食生活を見直し、日本型食生活を再評価する動きが広まっています。漬物は栄養豊富なノンオイルの野菜の加工品です。健康面からももっと漬物に注目してみてはいかがでしょうか。

２　漬物と気になる塩分について

もともと漬物は、長期保存するためにも高塩分となっていました。しかし、消費者の嗜好が変化し、健康面からも塩分の取りすぎが敬遠されるようになったことなどから、最近では冷蔵技術や保存技術により、漬物の低塩分化が進んでいます。（かって漬物は１０％以上の塩分でしたが、現在では５％以下が当たり前になっています。）

また、低塩分化が進むとともに、味付けも塩辛いだけの漬物から野菜の風味を生かした味の漬物へと変わってきています。

３　漬物の持ついろいろなメリット

（１）野菜の持つ栄養素を効率よく摂取できる

漬物は塩などの作用によって野菜を脱水するため、生野菜よりもずっとコンパクトで柔らかくなり、生では食べられないような野菜も食べやすくなります。

脱水してコンパクトになっても野菜の持つ栄養素はほぼそのまま野菜に残ります。ビタミン類などは長く漬け込むと徐々に減少してゆきますが、浅漬の場合はビタミン類もたっぷり残っています。

- 漬物は野菜の持つ食物繊維やミネラルを豊富に含んでいます。
- 浅漬は生野菜の持つビタミン類もたっぷり残っています。
- 漬物はノンオイル食品で脂肪分の取り過ぎを気にする必要がありません。

（２）その他漬物のいろいろな効果

- 漬物の香気や色が食欲を増進します。
- たくあんなどの漬物をよく噛むことにより、分泌した唾液が口中の衛生効果を高めたり、脳の活動性が向上し、集中力が持続します。
- 梅干しやにんにくは強い抗菌性があり、病原菌の繁殖を抑制します。

地域トピックス

食　育　推　進　課

海部苗木花き展示品評会が開催されました

平成 18 年４月７日（金）と８日（土）に弥富市の「海南こどもの国」において、「海部苗木花き展示品評会」が海部苗木花卉生産組合連合会の主催で開催され、海部地域で生産された鉢花・切花・観葉など多くの花と緑が一堂に集結した。当地域は、ポインセチア、ブーゲンビレア、ベゴニア等の鉢花生産が盛んであり、切花でも県内生産量の 100%を占める四季性のカラーを始め花しょうぶ、花はす等の産地でもある。近年では、消費者志向の多様化に対応し、生産する種類も増やしている。

今回の品評会では、植木苗木・観葉の部 16 点、切花の部 23 点、鉢花の部 69 点の計 108 点の中から、特選 20 点、入選 30 点の計 50 点を選び、入賞作品は会場内で展示された後、即売された。

土曜日は、悪天候にもかかわらず、会場内は家族連れでにぎわい、お気に入りの花の前で立ち止まり魅入る姿や、生産者と会話をする姿などが見られ、和気あいあいとした雰囲気であった。また、お買い得な価格で販売されているとあって、たくさんの買い物をしていく姿も見られた。日曜日には、会場で選んだ好きな花を用いたガーデニング教室や寄せ植え教室が開催され、消費者が花に親しむ機会を設けるとともに、今年 11 月 26 日に組合設立 50 周年を記念した大会のＰＲ活動も行われていた。花苗無料配布も２日間で計４回行われ、配布時間が近づくと行列ができるほどのにぎわいであった。

海南こどもの国へ品評会場を移してから今年４回目の開催となるが、歴史ある産地の振興と栽培技術の向上、さらには地域の人々へのＰＲという役割をこの展示品評会が担っていると感じた。

東 日 本 情 報

東京事務所物産情報グループ

大田市場で「トマトいろいろ」と題して全国のトマトが紹介されました

平成１８年４月２１日（金）に、大田市場で「トマトいろいろ」と題するイベントが開催されました。

イベントを主催したのは東京青果(株)で、食事習慣を健全化し、野菜の消費拡大につなげるために東京青果(株)が取り組んでいる食育イベントの一環として行われました。

イベント会場は大田市場内の東京青果競売場前に設営された特設会場で、会場では全国各産地のトマトが展示され、トマトの試食とトマトを使った料理の試食が行われ、売参人を中心とする多くの市場関係者で賑わいました。

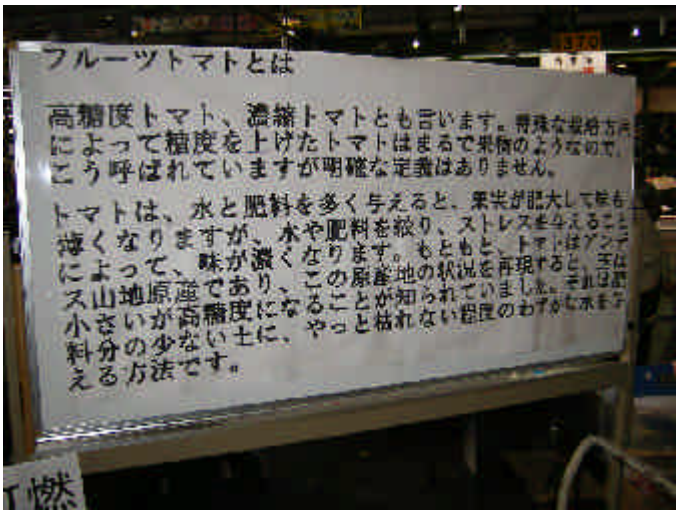
トマト・ミニトマトは全国の産地から京浜の市場へ入荷されています。近年では中玉のミディトマトや高糖度のフルーツトマトの入荷量も増えています。愛知産のものは秋冬から春を中心として多くの数量が入荷されており、平成１７年の東京都中央卸売市場への都道府県別の入荷実績では、トマトが全国第６位の約７，０３３トン（入荷量合計８５，９６９トンに占めるシェア８．２％）、ミニトマトは全国第１位の約２，８１６トン（入荷量合計１２，４２５トンに占めるシェア２２．７％）となっています。

イベントでは野菜を食べることが健康のために必要不可欠であることについての情報提供が行われるともに、全国各地で栽培されている様々なトマトの品種が数多く展示され、種苗メーカーによる品種の紹介やトマトを使った料理方法の紹介と試食も行われました。本県のものではＪＡ豊橋、ＪＡひまわりのミニトマト、ＪＡ豊橋のフルーツトマト「麗」、ＪＡひまわりのフルーツトマト「匠」、

ＪＡひまわりのミディトマト「フレンド」などが展示紹介されていました。また、愛知県農業総合試験場が育成した品種「ルネッサンス」の紹介も行われていました。

トマトを使った料理としてはトマトとたまねぎ、にんじん、じゃがいもなどたっぷりの野菜を煮込んで味付けした「野菜たっぷりミネストローネ」や、炒めた野菜を煮込んで料理するフランスの家庭料理、ラタトゥーユの味付けを味噌で行った「和風ラタトゥーユ」などが紹介され、ＪＡ愛知みなみのファーストトマトを使ったサラダの試食も行われました。

会場ではまだそれほど流通していないトマトや黄色や白など赤以外の色のトマトなども展示され、関心を集めていました。またフルーツトマトは多くの産地のものが展示され、試食した来場者は糖度が高く濃厚な味に満足していました。



ビタミンC、リコピンなどの栄養素を多く含み、生でも食べても料理してもおいしいトマトの消費が、今後より一層増えていくことが期待されます。

展示されていた主なトマト一覧

種類	商品名等	産地	出荷者	品種
大玉トマト	伊良湖トマト	愛知	JA 愛知みなみ	ファースト
大玉トマト	宇都宮トマト	栃木	JA 宇都宮	桃太郎
ミニトマト	ミニトマト	愛知	JA 豊橋	ココ
ミニトマト	ハニーレット	愛知	JA ひまわり	ココ
ミニトマト	サンフルーツ	千葉	JA 干潟	サンフルーツ
ミニトマト	優糖生	和歌山	JA みなべいなみ	キャロル７
ミニトマト	ミニトマト	佐賀	JA 佐城（川副）	千果
ミディトマト	フレンド	愛知	JA ひまわり	カンパリ
ミディトマト	鈴姫	茨城	JA かしまなだ	鈴姫
ミディトマト	大浜の恵	熊本	JA 大浜	華小町
フルーツトマト	麗	愛知	JA 豊橋	パワーファースト
フルーツトマト	匠	愛知	JA ひまわり	桃太郎ヨーク
フルーツトマト	藤娘	栃木	JA しもつけ	レディファースト
フルーツトマト	キストマト	茨城	JA なめがた	桃太郎
フルーツトマト	にこにことまと	香川	JA 香川県（三木町）	ほうりゅう
フルーツトマト	まほろば	高知	まほろば出荷組合	桃太郎ファイト
調理用トマト	イタリアントマト	茨城	JA グループ茨城	サンマルツァーノ
調理用トマト	調理用トマト	熊本	サンキュウ出荷組合	ユニバーサル

西日本情報

食育推進課

生産者と消費者をつなげ！

～流通関係者等産地理解促進事業～

近年、農産物に対する消費者の関心が高まる一方、農産物の生産から消費に至る各段階ごとに多数介在する流通関係者の間で情報が伝わりにくく、相互の理解と信頼が得られていないのが実状です。

こうしたことを解消するための取り組みとして愛知県農産物需要拡大推進協議会（構成：愛知県、ＪＡあいち経済連）は、農産物フェアや量販店での消費宣伝会の開催など各種事業の一つとして流通関係者等産地理解促進事業を実施しています。

この事業で、県内外の量販店の青果物担当者等を産地へ招き、生産現場や集出荷場の見学、産地関係者と意見交換などを１７年度に下表のとおり３回実施しました。

平成１７年度の実施状況

実施時期	品目	産地	対象
１７年5月２６日	スイートコーン	田原市	京浜地域量販店
１８年1月１８日	キャベツ	大府市	京浜地域量販店
１８年3月１６日	いちご、ミニトマト、トマト、ブロッコリー、ねぎ、水菜、小松菜、葉ねぎ、ねぎ、赤とうがらし、エリンギ、ブナシメジ、ヒラタケ、エノキ	東浦町	中京地域量販店

１７年5月２６日（木）には量販店青果物担当者と卸売業者をＪＡ愛知みなみ管内のスイートコーン生産ほ場に招きました。ほ場見学を終えた量販店の担当者から、

- 糖度がありあっさりしている。子供向けにはよい。
- 消費者は未だに「とうもろこしは『味来』」と決めている傾向を変えたい。
- 「ＪＡ愛知みなみのサニーショコラ」のポップを売場へ掲げ

スイートコーン栽培ほ場見学の様子

て特化したい。

- ポップに載せる生産者や部会メンバーの写真を提供して欲しい。写真の構図もほ場を背景とし、普段着のままの笑顔の生産者や若手の生産者も入れて欲しい。このほか、サニーショコラのこだわりのコメントを聞きたい。

といった意見等がありました。

量販店の担当者は生育や収量のことを気にしていましたが、生産者との情報交換や試食等を通して、ポップに生産者の写真やコメントを入れるなど、工夫を凝らした取組みも売り場での効果が期待できることを認識していました。

産地見学を終えた生産者は、一様に生産現場の状況がわかり満足した様子でした。

１８年1月１８日（水）には、カット野菜及び外食産業向け食材提供を行っている担当者及びその関連会社をＪＡあいち知多管内のキャベツ生産ほ場へ招きました。

キャベツ栽培ほ場見学の様子

担当者は、農協担当や生産者からの本県産キャベツの商品価値の説明に熱心に耳を傾けており、高く評価をしました。

また、１８年3月１６日（木）には、ＪＡあいち知多東浦営農センターにて、量販店で愛知県産品産直コーナーを設置するための「目揃え会」（生産者が商品を持ち寄って、出荷時の規格・品質確認等のチェックを行う）を行いました。

『目揃え会』の様子

その中で、

- 今回の産直は、規格外ではなく、通常規格のものを売っていく。
- 産直ということで、収穫して２４時間以内に売り場に並べる。
- 生産者の集合写真、産地紹介ポップを売り場に掲示する。
- 商品の袋を縛るテープを統一する。
- 品種にこだわっているものがあれば、売り場のポップに反映し掲げる。

など、量販店担当者と生産者が品目毎に出荷規格・選別基準・品質等の確認を互いにしました。

このように愛知県農産物需要拡大推進協議会では、今後も引き続き量販店担当者等を産地へ招き、県産農産物への理解促進を図っていきます。

愛知産青果物の動向

○　名古屋市中央卸売市場（品目：カリフラワー）

	入荷量（t）	うち愛知産	卸売価格（円/kg）	うち愛知産	前年の主な他産地（上位３産地）
１７年実績	１１５	８０（６９%）	１５９	１４１	徳島　（２６%） 長野　（　５%）
１８年見通し	１３０	－	１３０	－	

入荷量及び卸売価格の概要と見通し	卸売市場から産地への要望・提言等
３月から４月にかけて低温や曇天が多く播種及び生育が遅れていたが、４月中旬から気温も上昇し遅れは回復傾向にある。５月は遅れていた分が集中して入荷されるため、入荷量はまとまるであろう。愛知は５月で入荷が終了する。 入荷量は少なかった前年に比べかなり上回り、価格は高かった前年を大幅に下回る見込み。	カリフラワーはカレーやシチューに利用される定番野菜であるが、年々消費が減っているので、多くの人に知ってもらい消費につなげることが大切である。 またカリフラワーは白さが好まれる野菜なので、老化したものや色の悪いものは出荷しないよう注意されたい。

○　東京都中央卸売市場（品目：ペコロス）

	入荷量（t）	うち愛知産	卸売価格（円/kg）	うち愛知産	前年の主な他産地（上位３産地）
１７年実績	１９	１６（８６%）	４８８	５０８	ﾆｭｰｼﾞｰ　（１０%）
１８年見通し	１９	－	５００	－	

入荷量及び卸売価格の概要と見通し	卸売市場から産地への要望・提言等
北海道からの入荷は３月でほぼ終了し、４月の入荷はほとんどが輸入ものとなっている。５月上旬からは本県産の入荷が本格化するが、作付け面積の漸減傾向により入荷量はやや少なくなる見込み。米国、ニュージーランド、オーストラリア産の輸入物の入荷量は価格をにらみながらとなる。全体の入荷量は前年並みで、価格は前年をわずかに上回る見込み。	ペコロスは業務用を始めとして安定した需要がある。５月から愛知産が本格的に入荷されるが、気温の上昇に伴い乾燥不足による傷みの発生が懸念されるので、十分に注意して欲しい。玉揃いは良いので、需要の多いM玉を中心として正確に選果してもらい、安定出荷をお願いしたい。

フラワーページ

園芸農産課

愛知県花き生産振興指針の改正について

花き生産全国一を誇る本県では、平成６年１月に「愛知県花き生産振興指針」を策定し、振興目標を達成するため、様々な施策を展開してきました。

このたび、花きを巡る状況の変化を踏まえて、平成１８年３月に同指針を改正し、全国をリードする本県花き生産の更なる発展に向けて、今後５年間に生産者、農業団体、行政、流通関係者が連携して取り組む事項を示しました。

１　策定の背景

本県の花き産出額は、長期の不況に伴う業務需要の低下と価格低迷、輸入切り花の増加、消費動向の変化などにより、平成１０年をピークに漸減傾向となっています。

一方、最近では、輸出の機運の高まりや、花を使ったまちづくりなどの新たな需要も見られます。

国においても平成１７年３月にこれらの花き情勢の変化に対応するため、新たな「花き産業振興方針」を策定し、生産者などが主体となった方針や取組を示しています。

２　指針の要旨

花き生産の６つの課題について、１１項目の取り組みを示しました。

課　題	課題に対する取り組み
○多様な消費ニーズに応える生産性の高い生産構造の確立	・多様な消費ニーズに対応した生産体制の確保 ・ハイテク農業技術・新品種の開発と導入
○環境や安全性に配慮した花き生産の推進	・環境や安全性に配慮した栽培技術の確立と導入の推進
○流通・消費事情の変化に対応した集出荷体制の整備・改善	・日持ち性の向上のための輸送方法の改善 ・効率的かつ柔軟な集出荷体制の整備
○生産者自らが需要を創造し、マーケットを開拓する活動の強化	・消費拡大活動の推進 ・花きの輸出を目指した取り組みの推進 ・オリジナル品種の育成によるブランド化
○花きの持つ様々な機能を活用した需要の創造	・花のまちづくり等の推進
○経営体や生産者組織の育成強化	・経営能力に優れた強い経営体の育成 ・生産者組織の育成強化

３　花き生産振興の目標（平成２２年）

愛知県の花き産出額８００億円を目標とします。（平成１５年は７４０億円）

４　特徴

県、農業団体、生産者団体と流通・消費関係者とが、連携・協力を図ることを重視し、課題に対して取り組むべき内容を明確にしました。

また、環境への関心の高まりや「癒し」を求める消費者の増加などに対応するため、「環境や安全性に配慮した花き生産の推進」と「花の持つ様々な機能を活用した需要の創造」の２項目を加えました。

５　策定後の活用方法

花き生産関係者と流通関係者への周知を行い、今後５年間に取り組むべき事項について、歩調を合わせ連携して推進します。

また、指針の改正を検討した関係者（行政、生産、流通、消費）による「愛知県花き普及促進協議会」を定期的に開催し、関係者間の取り組みの紹介、連携協力事項の調整等を図ることにより、課題に対する取り組みを円滑に実施する体制を整備します。

関　連　指　数

項目 / 年月		消費者物価指数（全国 平成12年＝100　愛知県 平成12年＝100）				
		総合	生鮮野菜	生鮮果物	肉類	魚介類
全国	16年平均	98.1	110.5	100.3	104.0	95.9
	17年10月	98.1	101.8	98.4	106.3	92.4
	11月	97.8	98.4	90.8	106.1	93.5
	12月	98.0	100.2	87.5	106.3	95.4
	18年 1月	98.1	126.1	99.9	106.3	96.1
	2月	97.8	111.2	99.2	106.6	96.0
愛知県	16年平均	98.2	101.4	111.4	102.7	96.3
	17年10月	97.6	93.9	97.4	100.9	92.2
	11月	97.5	94.2	104.4	100.4	92.7
	12月	97.5	94.3	105.2	103.2	94.1
	18年 1月	97.6	122.9	92.5	104.3	98.0
	2月	97.2	106.3	94.0	103.8	99.2

資料　全　国‥総務省統計局「消費者物価指数月報」
　　愛知県‥愛知県企画振興部「名古屋市消費者物価指数」

項目 / 年月	農業物価指数　（平成12年＝100）				
	農産物総合	米	野菜	果実	畜産物
16年平均	105.7	102.4	115.2	99.6	105.4
17年10月	96.0	89.9	99.0	76.4	109.2
11月	95.4	89.8	96.1	74.1	108.3
12月	100.2	88.1	109.2	73.2	111.4
18年 1月	107.8	87.2	145.4	91.5	106.9
2月	106.3	91.7	126.3	103.2	107.4

資料　農林水産省大臣官房統計部「農業物価指数」

名古屋市小売価格（円）

品目 / 単位 / 年月	うるち米（単一品種、「コシヒカリ」以外）	キャベツ	はくさい	ねぎ	レタス	ばれいしょ	だいこん	にんじん	たまねぎ	きゅうり	トマト	生しいたけ	りんご（ふじ）
	5kg	1kg										100g	1kg
16年平均	2,633	189	203	632	567	270	178	310	205	570	632	181	486
17年10月	2,295	117	152	615	375	272	142	318	205	469	712	177	—
11月	2,295	145	156	583	385	278	152	285	210	607	765	172	494
12月	2,275	177	150	643	428	270	120	280	208	597	699	186	421
18年 1月	2,370	255	150	714	691	268	157	308	230	774	661	213	420
2月	2,247	194	146	621	523	261	167	296	220	638	568	166	443

品目 / 単位 / 年月	みかん	グレフルーツ	オレンジ	いちご	バナナ	キウフルーツ	緑茶（せん茶）	カーネーション	きく	バラ	豚肉（ロース）	牛肉（ロース）	まぐろ
	1kg						100g	1本			1kg		
16年平均	555	316	378	146	245	690	618	162	174	316	235	785	470
17年10月	609	248	340	—	231	649	617	149	160	298	238	854	453
11月	366	264	378	—	232	682	617	151	168	298	243	774	510
12月	373	347	363	—	220	651	617	160	171	322	229	741	493
18年 1月	399	380	442	175	228	671	617	153	175	313	231	833	509
2月	410	393	390	168	242	603	617	156	176	326	229	760	498

資料　総務省統計局「小売物価統計調査報告」

「青果物の見通し」及び「花きの見通し」ページにおいて使用する『変動の幅を表す用語』につきましては、下記の基準で記載しております。

わずか	：	±２％台以内
や　や	：	±３～５％台
かなり	：	±６～15％台
大　幅	：	±１６％以上

あいち農産物生産流通レポート　№395
平成18年5月発行
農林水産部食育推進課
〒460-8501
名古屋市中区三の丸三丁目１番２号
電話　（０５２）９５４－６４１７